分科会報告　B分科会

●テーマ：震災②　ボランティア活動の報告と取り組み

●司会：熊谷友子（岩手県建築士会、設計事務所クマガイスペースプランニング 代表）
●アシスタント：広田智子（岩手県建築士会）　●出席者：18名

主旨

東日本大震災の被災県である岩手と宮城の2県の方々からボランティア活動事例を発表していただいた。そして、活動の内容や活動を行う上での問題点、継続していく難しさとその手法などを参加者の方々と意見交換しながら、建築士として、地域住民の1人として、ボランティア活動のあり方について話し合った。

事例発表1「花咲プロジェクト」

コメンテーター：小山田サナエ（岩手県建築士会）

震災直後は情報網が断たれ、内陸の盛岡支部では、まずは現地に行ってみようということになった。惨状を目の当たりにし、数日後に「この町にもう一度彩りと日常を取り戻す一助となるように花を植えてこよう」という声があがり、この活動が始まった。

2年前から調査活動をしていた芝棟民家についてまとめた『いわて芝棟ものがたり』の小冊子を発刊して活動資金とし、プランターで育てられる花や野菜を携えて仮設住宅へ届けている。

●岩手県の事例発表「花咲プロジェクト」より。大槌町仮設住宅にて

●B分科会の様子

引きこもりがちになっていた住民からは「外に出るきっかけになった」と喜ばれ、住民同士のコミュニケーションの一助になっていると思う。復興住宅が建ち始め、仮設住宅から移っていく住民もあり、喜ばしいながら、今後の活動の方向を模索中である。

事例発表2「福島へ　災害ボランティア活動報告」

コメンテーター：清本多恵子（宮城県建築士会）

震災発生後「こころはひとつ」作戦プロジェクトを立ち上げ、「がんばろう東北」のステッカーを作成し、その購入基金を使って小中学校、仮設住宅、仮設保育所へ「木製パネル」を配布する活動を始めた。無機質な仮設建物の壁面に立て掛けるだけで冷気の伝わりを防ぐことができると喜ばれた。

また、隣県の福島県南相馬市小高区で「泥かき」のボランティア活動も行っている。この地域は「避難指示解除準備区域」となっており、住民の帰宅は許されるが宿泊はできず、ボランティアに入る人数も少なく、住民が通いながら片付けを行っている状況である。近隣県の会員にも呼びかけ活動を始めた。未だに線量が少し高く、活動時間に制約はあるが、地元会員とも交流が持て、現状をより詳しく把握できた。

まとめ

参加者自身の体験を踏まえて意見交換が行われた。応急危険度判定など、建築士ならではの活動が多かったが、有事の時のボランティア活動の連絡網づくりに取り組んだ事例も出された。

災害後の変化する要望を把握できるのは、その地域の建築士であるから、他の県に伝えるネットワークづくりが必要という意見がある一方で、地域の建築士も被災者になりうるという意見が出された。

また、継続には資金の確保の必要性や、全国の建築士が協力し合える組織づくりや改革が必要ではないかという意見が出され、今後につながる分科会になった。

●宮城県の事例発表「福島へ」より。南相馬市小高区で災害ボランティア